

提言事項の方向性の整理

各項目毎の個別の内容は今後記載

今後、少子高齢化が更に進む中、我が国が競争力を強化し持続的に成長していくためには、我が国の経済活動と国民生活を支える社会インフラたる物流がその機能を十分に発揮していく必要がある。

そのためには、物流が、変化への柔軟な対応力や資源をムダなく活用する高い効率性を有し、サービスを持続的・安定的に提供していく必要がある。また、荷物がスムーズに流れ、我が国の隅々まで行き渡るとともに、リスクに対する強靱さと環境面での持続可能性を有する必要がある。これらを実現するために新技術の活用と人材育成等は重要な鍵となる。

2 で述べた諸課題を乗り越えて、将来を支える「強い」物流を実現していくために、以下の提言を行う。

〔提言 1〕 サプライチェーン全体の視点での最適な物流の構築（＝繋がる）

- （ 1 ）複数の企業間で連携して取り組むことにより物流を効率化
 - 複数の事業者の連携により物流のムラをなくす（ピークの平準化）
 - 複数の事業者の連携により物流のムダをなくす
 - （情報の先渡しによる効率化）
 - 共同物流により積載のムダをなくす・輸送モード間の連携により効率的に輸送する
- （ 2 ）サプライチェーンの高度化に資する共通プラットフォームの構築
 - 事業者間での連携を円滑にするためのデータの標準化等
 - パレット使用等の標準化による荷役効率化・トラック稼働率向上
 - R F I D 利用の拡大
- （ 3 ）内際の壁を越えた物流システムの構築
 - アジア諸国等において我が国企業が行う物流の円滑化
 - コールドチェーン等の我が国の物流サービス等の国際標準化
 - 農水産品輸出促進に資する物流面での取組み

〔提言 2〕 物流の透明化・効率化とそれを通じた働き方改革の実現

(= 見える)

- (1) サービスと対価との関係の明確化を図る
(時間コスト等の「見える化」を図る)
- (2) 透明性を高めるための環境整備を進める
(契約の書面化、法令遵守等)
- (3) 付加価値を生む業務への集中・幅広い者が活躍できる物流への転換
荷待ち時間や荷役時間の短縮による稼働率向上
宅配便再配達削減
女性等の幅広い者が活躍できる環境の整備

[提言 3] ストック効果発現等のインフラ機能の向上による効率的な物流の実現 (= 支える)

- (1) 道路・海上・航空・鉄道の輸送機能の強化
道路輸送の機能強化
海上輸送の機能強化
航空輸送の機能強化
鉄道輸送の機能強化
- (2) 物流施設の機能の強化
- (3) モーダルコネクタの強化等による相乗効果の発現
- (4) 物流を考慮した地域づくり
都市機能の一つとして物流をビルドインする
地域における人口減少、高齢化に対応する

[提言 4] 災害等のリスク・地球環境問題に対応する持続可能な物流の構築

(= 備える)

- (1) 災害等のリスクに備える
災害に強い物流システムの構築
物流インフラの老朽化対策
セキュリティ、海賊対策等
- (2) 地球環境問題に備える
サプライチェーン全体での環境負荷低減
輸送モードの低公害化

〔提言5〕飛躍的な効率化をもたらす新技術等（IoT、BD、AI等）の活用

（＝進化する）

- （1）IoT、BD、AI等の活用によるサプライチェーン全体最適化の促進等
- （2）隊列走行および自動運転による運送の効率化
- （3）ドローンの活用
- （4）物流施設の自動化・機械化
- （5）船舶のIoT化

〔提言6〕人材の育成・物流への理解を深めるための国民への啓発活動等

（＝育てる）

- （1）最適なサプライチェーンを構築する物流高度人材の育成を図る
- （2）物流現場における人材の育成を図る
- （3）物流に対する理解が深まるよう啓発・教育活動を進める